# 池上彰さんが語る 新聞とニュース検定の魅力

## 時代を読み解く力養う

新聞やテレビのニュースを読み解き、活用する力を養う「ニュース時事能力検定試験」は、4月から13年目に入ります。これまで毎日新聞社や全国の地方新聞社などが主催してきましたが、2019年度から朝日新聞社が新たに加わり、より広がりを持った検定になります。なぜ、時事問題を読み解くことが大事なのか。新聞やニュースに接すると生活の中でどのように役立つのか。テレビでもおなじみのジャーナリスト、池上彰さんにお話しいただきました。

【聞き手・毎日教育総合研究所代表取締役、小島明日奈】

今、新聞を読んでニュースに関心を持つことが、なぜ必要か。それは私たちの暮らしが世界の状況に大きく影響されているからです。例えば、米国のトランプ大統領が何かを発言すれば、そのひと言で世の中が動く。米国と中国の貿易摩擦にしても、この2国に限らず影響は日本にも及び、私たちの生活にも関わることなんです。

最近は厚生労働省の毎月勤労統計が問題になっていますね。この統計を基にして、雇用保険や労災保険の金額も決まりますが、データが間違っていたので、その金額が少なくなっていました。本来、もらえるものをもらえない人がたくさん出てきてしまった。これらも新聞を読むと、きちんと書いてある。国の統計処理だけの問題ではなく、私たちの暮らしに直接関わる出来事だということがよく分かります。

私は今、新聞を13紙読んでいます。毎日や朝日のような全国紙と各県域で発行されている地方新聞、さらに毎日小学生新聞などです。コラムを書いているので送ってもらう新聞もありますが、毎日、目を通しています。

朝食を取りながら20分ほど全国紙の1面などを比較しながらぱっと見ます。夜は風呂を出た後に1時間ほどかけてじっくり読むんです。テレビはほとんど見ません。私は活字人間なんです。だから新聞が好きですね。

### 気になる記事 破いて取りおく

気になる記事「おや、これはどんな話なんだろう」という記事を見つけると、その部分をびりびりと破いて取っておきます。そして、その出来事に関する専門書を読む。するとその経緯や内容が分かりますね。その知識がストックできる。次に新聞で関連する記事が出てくれば、「ああ、あのことか」とすぐ理解できるのです。

でも一般にはそんな読み方はなかなかしませんね。では、どうするか。気になる記事、読みたい記事があれば読む、という程度でいいんですね。新聞を義務感で読む必要はないんです。面白くなければ、どんどん飛ばしてページをめくればいい。数日にひとつ、気になる記事が見つかれば、それでいいんです。それが1日にひとつになると、しめたものですね。そういう読み方で十分です。気になる記事は破いておく。自宅でとっている新聞はどんどん破いていいんです。

高校生や大学生が将来のことを考える。「どんな仕事に就いたらいいのか分からない」。そんな不安もあるでしょう。新聞記事を見ていくと「ああ、世の中にはこんな仕事があるんだ」と気付くことがあります。その記事を破いて取っておく。それがたまると「私はこんな業界や仕事に関心があるんだ」と客観的に知ることができます。職業を選ぶ際に役立つんです。

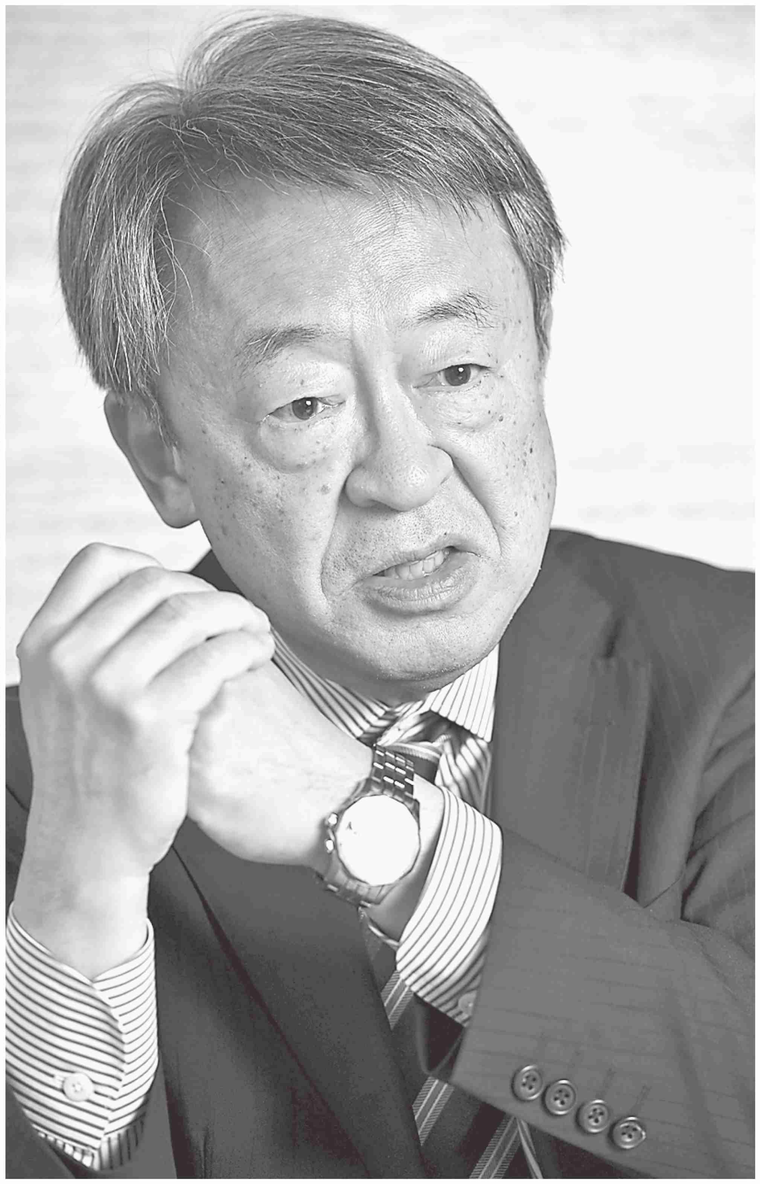
### 小中学生から 読解力の向上に

小中学生にも役に立ちます。小学6年生と中学3年生を対象に毎年実施している全国学力テストでは、新聞の読み方や、グラフや表を読み取って答えさせる問題がよく出題されます。私立中学の入試問題では必ずといっていいほど、時事問題が出題されます。

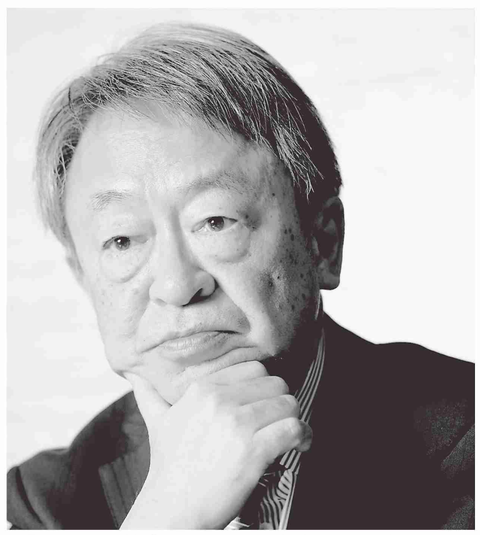
「世の中の動きに関心を持っている子は、学力も上がるし、周囲の友達にも良い影響を与える」と、学校が分かってきたからですね。

20年度から始まる大学入学共通テストでも、長い文章を読ませたり、表やグラフを読み解いたりして答えを求める問題が出るようです。最近はツイッターなどで短い文章を読んだり書いたりすることに慣れている人が多いのですが、大学での勉強はそれでは困るんです。長文を読んでしっかり考える力が必要です。これらは新聞を読んでいると必ず身につく力です。

読解力が身につく上に、環境問題や科学的分野の記事も目に入ることで、世の中への関心が広がります。自らの世界が広がるんです。メディアリテラシーが重要だとも言われます。どのような発信源の情報なのか。それを確かめる上でも、どの新聞社が書いた記事なのかによって、同じ出来事も見方が変わる。それに気付くことも大切ですね。



「新聞はどんどん破いていい」と話す池上さん＝東京都千代田区で、内藤絵美撮影



「ニュース検定の問題は工夫されていますね」と池上さんは強調した＝内藤絵美撮影

大学で教えていますが、新聞を読んでいる学生はやはり学力が高いと思います。学力が高いから新聞を読むのか、新聞を読んでいるから学力が上がるのかはともかく、相関関係があるのは確かです。

今後、AI（人工知能）がますます進展していく時代になります。しかし、いくらAIを活用する社会になっても、最後の判断は人間が下します。AIを活用して人はどう生きるべきなのか。倫理観や正義感がより重要になりますね。それを判断する材料やきっかけがやはり新聞なんです。

### 新聞社の主催 さらに拡大願う

ニュース時事能力検定は、もう13年目に入りますね。大学で教えていると「ニュース検定を受けたことをきっかけに時事問題に関心を持つようになりました」という話を聞きます。ニュースに関心を持つ学生が出てきていると感じます。就職試験の面接でも時事問題を聞かれますよね。答えられないと致命傷です。就活という実利面でも役に立つことが分かってきたということでしょう。

世の中にはいろいろな検定がありますが、より良く生きていくには時事問題やニュースを読み解く力が必要です。その点でもニュース検定は役に立ちます。

来年度から、毎日新聞社に加えて朝日新聞社もニュース検定の主催に加わりますね。とても良いことだと思う。ニュース検定は、世の中の動きをとらえるための問題が工夫して出題されている。各地の地方新聞社や放送局もそれぞれの地域で主催していますが、より多くの新聞社がニュース検定の主催に加われば良いと思います。

## 07年から41万人志願

### 1級～5級 習熟度に合わせ

ニュース時事能力検定試験

ニュース時事能力検定試験は、新聞やテレビのニュース報道や時事問題を読み解いて活用する力を養い、認定する検定です。2007年から全国実施されており、これまでの志願者数は延べ41万人を超えました。1級から5級までがあります。

先行き不透明な時代だからこそ社会の出来事を多角的・公正に理解、判断する力が必須だと中学、高校、大学入試で時事を扱う問題が増えているほか、約400の大学・短大の推薦入試やAO（アドミッション・オフィス）入試でニュース検定の合格が優遇・評価されています。就職活動の面接でも時事問題を問われる機会が少なくありません。

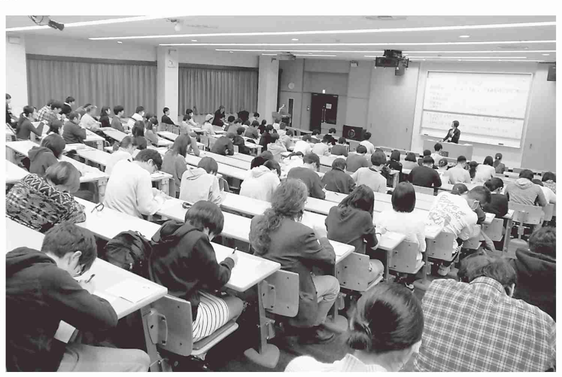
検定問題は「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5分野から、2～5級では約6割が公式教材から出題されます。

2019年度版の公式テキスト「時事力」発展編（1・2・準2級対応）、公式テキスト&問題集「時事力」基礎編（3・4級対応）、公式テキスト&問題集「時事力」入門編（5級対応）、公式問題集1・2・準2級＝写真＝は、3月に全国の主要書店で発売されます。

世の中では今、何が課題になっているのか、それを解決するにはどのような考え方が必要なのか。日常生活にも即した課題解決能力を養う上でも、ニュース検定は大きなヒントになります。

### 2019年度の検定スケジュール

| | 第45回 | 第46回 | 第47回 | 第48回 |
|---|---|---|---|---|
| 検定日 | 6月23日 | 9月1日 | 11月24日 | 2月16日 |
| 会　場 | 全国41都市 | 東京・大阪 | 全国41都市 | 東京・大阪 |
| 受検できる級 | 1～5級 | 2～5級 | 1～5級 | 2～5級 |



昨年11月に実施されたニュース検定受検の様子＝東京都文京区で、澤圭一郎撮影

**主催**

日本ニュース時事能力検定協会、毎日新聞社、朝日新聞社、毎日教育総合研究所

北海道新聞社、東奥日報社、岩手日報社、河北新報社、秋田魁新報社、福島民報社、茨城新聞社、下野新聞社、上毛新聞社、新潟日報社、富山新聞社、北國新聞社、山梨日日新聞社・山梨放送、信濃毎日新聞社、静岡新聞社・静岡放送、新日本海新聞社、山陰中央新報社、山陽新聞社、中国新聞社、徳島新聞社、四国新聞社、愛媛新聞社、高知新聞社、ＲＫＢ毎日放送、熊本日日新聞社、大分合同新聞社、宮崎日日新聞社、南日本新聞社、琉球新報社